

春駒

春駒は、荻町特有の伝統芸能の一つです。演劇、音楽、踊りを組み合わせたこの春駒は、日本神話の七福神の衣装を着た演者たちが2人の「舞子」とともに、幸運の神である七福神に関連する伝説をテーマにした、さまざまなコミカルなパフォーマンスを披露します。春駒は、繁栄と商売の神である恵比寿天が幸運の象徴である鯛を釣る、農業と富の神である大黒天が金の小槌でお金を出すなどの、6つの種目で構成されています。この春駒は、少なくとも明治時代（1868年～1912年）から荻町で行われており、春駒というその名のとおり、もともとは春にちなんでいたようです。伝統的な太陰暦の2月の最初の「午（うま）の日」である初午（現在は2月下旬～3月中旬）に、この春駒の一団は村中の家を訪れ、1年の繁栄を祈ってこれらの幸運を呼ぶパフォーマンスを行っていたようです。春は養蚕と農業の季節の始まりであり、春駒はこれらを始めるための縁起の良い方法と考えられていました。春駒は今でも荻町で毎年行われていますが、現在は元旦に行われています。元旦になると気まぐれな一団が村の中をパレードし、次々と家を訪れ、すべての家で日本酒を飲んでいきます。また春駒は、10月のどぶろく祭や結婚式などのお祝いの時にも行われることがあります。